

(2025 年 11 月 11 日発行)

日本口腔顔面痛学会理事長 小見山 道

広報委員会担当理事 山崎英子/委員長 池田浩子

今回は、2025 年 9 月 21 日に行われた口腔顔面痛臨床推論実習セミナーについて広島大学口腔腫瘍制御学講座の上原先生に報告していただきます。

口腔顔面痛臨床推論実習セミナー参加報告

広島大学 口腔腫瘍制御学講座 上原 輝

2025年9月21日に慶應義塾大学信濃町キャンパスで開催された、口腔顔面痛臨床推論実習セミナーに参加してきた。本セミナーは、口腔顔面痛認定医の受験資格取得に必要な項目であり、会場に着くとすでに多くの人で賑わっていた。今年の受講者は24名であり、去年の18名に比べ、1.5倍に増加している。これは口腔顔面痛に対する歯科医師の関心の高まりであろう。1班6名につきファシリテーター2名が指導に当たる体制となっており、疑問があった場合でもすぐに質問できる素晴らしい環境であった。

村岡 渡先生(川崎市立井田病院)から開会のお話があった後、朝一番は、和嶋浩一先生(元赤坂デンタルクリニック)からの仮説演繹法についての講義であった。正直なところ、学生時代にも耳にしたことのある用語ではあったが、日常診療で意識的に使ったことはほとんどなかった。患者の主訴をもとに複数の仮説を順位づけし、それぞれを検査や問診で検証しながら絞り込む。その過程で仮説が誤っていれば修正し、新たな仮説を立て直す——言葉にすれば単純だが、実際には我々の診断行動の多くはこのサイクルに依拠していることに気付かされ、自分の診断プロセスを振り返るきっかけとなった。

特に印象的だったのは、「診断に迷った時こそ仮説演繹法に立ち返るべき」という言葉である。経験や直感に頼るのは悪いことではないが、それだけでは再現性に乏しく、他者に説明できない。診断を患者に納得してもらうには、プロセスを言語化できることが重要だと強調されていた。

次の講義は、原 節宏先生(日本歯科大学附属病院)から筋・筋膜性疼痛についてであった。筋・筋膜性疼痛はとくに臨床でも目にする機会が多い分、正しい知識や触診法を学ぶことに意義がある。今回の講義と実習では、咬筋、側頭筋、胸鎖乳突筋といった主要な筋に対して、どのように触診を行い、どの程度の圧をかければよいのかが丁寧に解説された。

実習では、受講者同士でペアになり、実際に触診を行った。自分が患者役になった際、想像以上に敏感に圧痛を感じる部位があり、「ここが日頃の肩こりと関係しているのかもしれない」と実感できたのは新鮮だった。また、圧を加える方向や強さによって関連痛が誘発されることもあり、患者さんが訴える漠然とした痛みを具体的に再現できる点は大きな発見だった。



写真 1：筋・筋膜性疼痛の触診法

午前の最後には、実際の症例を用いた鑑別の実習が行われた。見逃してはならない疾患や確率が高い疾患を列挙し、その患者にどのような質問をして、どのような検査をするのか、また、そうやって得られた情報からどのように鑑別を行っていくのかを仮説演繹法の流れに沿って行うといった体験ができ、臨床での応用の仕方が具体的に理解できた。

午後は、大久保昌和先生(日本大学松戸歯学部)から12脳神経検査に関する講義が始まった。医科領域では当然のように行われるが、歯科臨床で系統的に実施する機会は少ない。手順を簡略化してわずか2分程度で効率的にスクリーニングできる方法を紹介してくださった。



写真2：12脳神経検査スクリーニング法

眼球運動の確認、三叉神経の感覚検査、顔面神経の表情筋テスト、さらには内耳・舌咽神経による聴覚や発声の確認まで、一連の流れのデモンストレーションがあり、それをすぐに受講者同士で実習を行えたので、自分のものにすることができたと感じた。

最後の講義は、野間 昇先生(日本大学歯学部)から神経障害性疼痛についてであった。神経損傷に伴う灼熱痛やアロディニア、しびれなどの症状は、筋・筋膜性疼痛とは明らかに異なる特徴を持っており、その鑑別の行い方や成因についてフォーカスが当てられた講義であった。

ここでも実習形式が取り入れられ、実際の症例を用いた鑑別が行われた。午前の鑑別実習と比べてミスリードを促すような、少しいじわるな問題設計になっていたが、今日一日で得た知識をフル活用し、想定されていたであろう診断に辿り着くことができた。自分ひとりではなく、他者と話し合って診断を進めてゆく時間は有意義であった。本実習セミナーを通して、この診断がどの仮説に基づくのか、診断プロセスを言語化できる力が身についたように感じた。



写真3：診断実習

【上原 輝先生のプロフィール】

大学院生として、舌癌細胞の増殖因子に関わる研究をするかたわら、
クリニカルスタッフとして、口腔癌患者の診察を行なっております。



【略歴】

2022 年 九州歯科大学 卒業

2023 年 広島大学大学院医系科学研究科口腔腫瘍制御学 入局

2025 年現在 大学院 3 年生

【所属学会】

日本口腔外科学会

日本口腔科学会

日本口腔腫瘍学会

日本摂食嚥下リハビリテーション学会

日本口腔顔面痛学会

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp